

特集【今後のPTA活動を考える】



今年度の中山小学校父母と教師の会では、「絆～子どもと未来のかけはし」をテーマにPTAの活動をより多くの皆様にご理解していただき、参加していただくためどのようにすれば良いかを話し合っていました。この誌面をお借りして、今まで一年間の振り返りとやってきたことの成果や反省、そしてこれからのPTAのあり方などを探っていききたいと思います。

新

しく30年度のPTAを運営するにあたり、まず真っ先に頭にあったのは、PTAは常に「子どもたちのため」であるべきだということです。29年度は、「絆～子どもたちと地域社会」というテーマで活動してきましたが、PTAという絆とは、まず子供と親の絆、子供と先生の絆、そして親と先生の絆が挙げられると思います。この三方が強い絆で結ばれていないとよい方向には進みません。そこでまずは「子どもたちのために」できることを精一杯やろうと考えました。では、「子どもたちのために」いったい何ができるのか。それを考えたときに結論は一つではなく、できることの一つ一つの積み重ねだと思っています。PTAの年間行事として主なもの、運動会でのPTA連携競技（親子リレーや借り物競走など）、姉妹都市の学校との国際交流事業、ソフトボール大会、学習発表会での制服などの遊休品バザー受付窓口などがあります。PTA役員会において、委員として選出されれば、これらの委員会への出席等もあり、全体としてはPTAはやらなければいけないことが大変多いというイメージをもたれている方が多いのではないのでしょうか。しかし、これにつきましては前述からのとおり、できることをできるときにしていたくだけで十分だと思います。役員や委員を引き受けるには、多少なりともご家庭やご家族に負担がかかりますが、できる限りその負担が軽減できるようさまざまな対策を講じているところです。「子どもたちのため」のPTAが選ばれた役員の負担で成り立っているというのでは、PTA自体の存在意識が失われかねません。ですから、これからのPTAには、各役員・各委員が極力負担とならない体制づくりが

必要になってくると思います。今年度改正した委員選出方法の見直しもその一環であると思っています。前回の臨時総会や学年懇談会でもご説明させていただきましたが、現状、専門委員や事務局員を各地区から選出することは、もはや限界に達している状況です。PTA会則の細則に「役員は、連続して3年を超えないことを原則とする」と記されていますが、昨今の児童数の減少等により、各地区の会員数に大きな差が生じてきているため、毎年何らかの役を引き受けなければならない地区もあるのが現状です。改正は初めての試みでしたので、問題点も山積みですが、そこは今後問題点を一つ一つ解決していくしかないと思っています。例えば、今回は上位選出者に集まっていた各委員を決定したわけですが、上位選出者への周知方法や、過去に何度も役員・委員をしていただいた方への免除方法等については、理事会や常任委員会で議論に議論を重ねた事項です。それでも課題は出ましたが、会員の皆様からいただいた貴重なご意見を基に、今後、よりよい選出方法となるように改善していかなければなりません。なるべく多くの方にPTA活動に実際に携わっていただき、その大切さや楽しさを感じてもらい機会を増やすようにしたいです。この一年間を振り返ると、多くの役員、保護者の皆様、そして先生方と話す機会を数多くもつことができました。PTAは、子供たちを取り巻く問題について、学校との連携を図るための必要な組織であると思います。今後も会員の皆様から気軽に相談を受け、よりよい子育て環境の構築につながるような組織づくりと、「子供たちの幸せ」を守り、作りあげていくための活動を続けていくことがPTAの活動として重要であると考えます。皆様のご理解、ご参加を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

中山小学校 PTA 会長
河合 直樹



私

自身、振り返ってみると上の子供の時に役をさせて頂いてから早いもので10年も経っていました。10年も経つと親の考え方においても少し世代間のギャップがあるのではと危惧していましたが、そんなことは全く気にならないくらいに、皆さんと仲良くさせていただいたこ



副会長 清水 健太

とに感謝しております。任期中、球技大会の地区対抗が今までの4年生以上の編成では、人数の関係上できない地域が出てきたりとかしまして、少子化がわが校区にも迫ってきているのかと驚いています。末っ子の卒業で私もPTA卒業となりますが、2年間お付き合い本当にありがとうございました。

本

年度初めてPTA活動に関わらせていただきました。年度始めに引継ぎは受けたものの、実際何からどう始めたらよいのか分からず途方に暮れていましたが、周囲の方々の多大なサポートをいただき、楽しく行事を進めることができました。ありがとうございました。



副会長 山本 達也

PTA活動を通じて自分自身コミュニケーションの輪がひと回りもふた回りも大きくなった感じがします。年度の後半は自分なりのスタイルで活動に関わることができました。あらためて保護者、児童、先生の相互のよいコミュニケーションが、楽しみながら活動を進める大きな原動力になっていることを実感しました。

平

素はPTAの事業にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。今年度を振り返ってみると、着用できなくなった制服等をご提供いただける機会が2回しかありませんでした。そこで、来年度はウォークインラリーや校内バザーの当日にも制服の受け入れ窓口を設置し、受付することになりました。これでさらに卒業生の皆様からも提供していただきやすくなったのではないかと思います。できるだけ沢山の制服を活かせればとおもっております。皆様のご協力のほど、よろしくお願い致します。



副会長 曾谷 愛



本

年度のPTAにおきましては役員選出方法の改定という大きな動きがありました。ここ数年前から役員の選出方法については、皆さん頭を悩まされていました。今回の改定におきましては事前にアンケートの実施を行い、さらに全ての会員への説明やPTA会則の細部の見直しまで、慎重な審議と試行錯誤を重ねつつ、実施することになりました。これにより、みんなが楽しく参加できるPTAに一步前進したのではないかと考えております。今後さらに皆さんが気軽に参加できるPTAになるまでは、まだまだ発展の途上ではありますが、よりよいPTA活動になるために、微力ながら今後も協力させていただきます。



副会長 茂森由紀子

本

年度は、ソフトボール大会の運営全般を担当させていただきましたが、初めての経験ということもあり、果たしてきちんと進められるのかと不安な面が数多くありました。しかし、いざ蓋を開けてみると、参加していた児童を含め、役員の皆さんの多方面にわたる協力により無事終了することができました。今回の行事を通じて、あらためてPTAの活動は、保護者や児童とつながって成しえるものということ強く実感しました。この素晴らしいつながりは今だけではなく、未来へと続けていって欲しいものです。PTA活動を通して、たくさんのつながりをつくっていくことが、子供たちの未来への懸け橋となるのではないかとおもいます。皆さんもぜひご参加ください。そして一緒につながっていきましょう！やってみると、コミュニケーションの輪がさらに広がって楽しいですよ。



副会長 北野剛

